

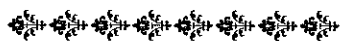
緑 蔭

発行所
白鷗女子高等学校
緑蔭会事務局
横浜市鶴見区北寺尾4-10-13
電話 045-581-6721
編集人 青木早苗
福安英久
印刷所 デイトナプリント
川崎市幸区都町37-2
電話 044-522-2556



思い出

緑蔭会会長 高橋 キクエ



同窓生の皆様如何お過ごし
ございますか。

令和2年、3年と続けて新型コロナ禍に振り回され、日本国中が家の中での生活を余儀なくされてしまいました。やっと終息が近づいたと思う間もなく、今度はオミクロンの出現です。私許りではなく、友人と逢う事も出来ず、旅へも出られず、このウイルスの蔓延には、打ちひしがれている昨今ですが、皆様に於かれましては、その対策を充分立て乍ら御活躍下さいます様お祈り致して居ります。

この様な状況の中、昨年は、懸念されていた夏季東京オリン

ピックが一年遅れで開催され観客動員数も制限され、盛り上がりの欠けた状態でしたが、結果に賭ける若人の活躍には目を見張るものがあり、テレビの前で数多くの金、銀、銅メダルの獲得に一喜一憂したものでした。そして当校では、インターハイでテニスの女子ダブルスの全国制覇と言う偉業を成し遂げ、飛び上がって喜んだのも思い出です。

また、年末は、全国女子高校駅伝大会に神奈川県代表として、小雪まじりの京都都大路を力強く駆け抜ける後輩の皆さんの応援に、理事長先生方々と御一緒出来たのも幸せでした。

その折の雑談の中で昔の京浜女子商業高校時代の数々が話題に上がり常に前進あるのみに生きてきた私に昔を振り返る時を与えられた様な気が致しました。

本年90才を迎えます私にとって入学当時の思い出がなつかしく蘇って参りました。

昭和19年入学ですが、当時太平洋戦争も末期を迎えつつあり、敗戦色の濃い時代でした。激しい受験競争を勝ち抜き、憧れの制服に身を包み、希望に溢れる通学でした。制服は緑のジャバラのセーラー服、胸には緑のスカートの

のスカートを身に纏って毎日元気に登校致しました。授業は一年生前半は十分に受けられましたが、次第に満足な授業が受けられなくなり、二年生以上の上級生は工場に徴用され、一年生の私達は一部畑と化した運動場で農作業に従事する事になって行きました。授業の音楽は軍歌、体育は長刀、木銃の練習と言った戦時色の濃いものとなりました。こんな状況の中でも、礼法は小笠原流を学び、礼法室での実技では、襖の開け閉め、畳の歩き方、座布団の座り方等を学びました。この様な校風でしたので上級生は、上品で美しい身のこなし、マナー等、本当に素晴らしい動作が身につけていて、私達下級生は尊敬の念を抱きつつ、自然に学んでいったのも充分納得出来る教育内容でした。

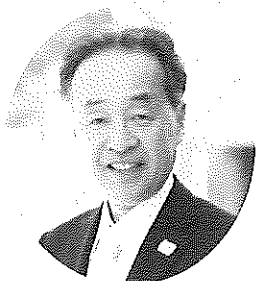
下町に育った私にとって、濁者が水を得、病人が良薬を得たにも似た喜びを今でも忘れる事が出来ません。生涯を通じて教えるを順守し、人生を全うしたいものと考えております。

(2) 令和4年3月10日

同窓会だより

道

校長 阿部 陽一



厳しかった冬の寒さも和らぎ、今年も新たな希望に満ちた春が巡ってまいりました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

皆さんの新しい門出を祝い、そして、これから未来への道を歩みだす皆さんに「道」と言う一文字とともに、はなむけの言葉を贈ります。

「道」

長い人生にはなあ
どんなに避けようとしても
どうしても通らなければ
ならぬ道というものが
あるんだな

そんなときはその道を
だまって歩くことだな
愚痴や弱音を
吐かないでな

黙って歩くんだよ
ただ黙って
涙なんか見せちゃダメだぜ

そしてなあ
その時なんだよ
人間としての
いのちの根が
ふかくなるのは

相田みつをさんの「道」という詩です。

皆さんは、高校生活3年間のうちの多くを、コロナ禍の中で過ごしてきました。しかし、愚痴や弱音を吐かないで、一步一步進み、人間として大きく成長してきました。皆さんは、これからまた、自分が信じた道を、一步踏み出します。そして、皆さんの行く手にはこれからもどれだけの山や谷があるかわかりません。しかし、そんな時、この「道」という詩を思い出してほしいのです。人間としての命の根をしっかりと張るために。

卒業生の皆さんは、3年間の学び舎ともお別れですが、私たちは、これから続く在校生と共に、本校の発展のために努力していきます。

同窓会の皆様には、日頃から本校のために、お力添えをいただいておりますことにお礼を申し上げます。

さて、本年度も、新型コロナウイルスの影響で、前例のない状況となりませんが、本校では、オンライン授業等も実施し、学びを止めることなく、カリキュラム通り授業を進めることができました。

そして、体育祭や記念祭等行事も実施することができました。

今年度の体育祭のスローガンは、「罨狗兎龍（ビクトリー）—轟け 勝利へのエール—」でした。

罨狗兎龍の字が表すように、ヒグマ・いぬ・うさぎ・ドラゴンと躍動感ある姿を「とどろきアリーナ」で、見せていただきました。

本校では、文化祭のことを「記念祭」と言っています。それは、現在の「川崎市川崎区」にあった学校が、この地、「横浜市鶴見区」に移転してきた時に行われた「記念祭・移転記念祭」が由来し、

現在でも、文化祭の名前を「記念祭」として使われているのです。

そして、今年も、この地に移転して75回目、創立して85年目の「記念祭」となります。

今年の記念祭のスローガンは、「Real time」でした。

このスローガンには、「今この時間を大切にしよう。今この時間を楽しもう。制限に囚われずやりたいことをやり、本当の自分の姿（Real な自分の姿）を見せよう。」という思いが込められていました。

展示で、販売で、ステージで、時間を大切に、時間を楽しみ、本当の皆さんの姿（Real な姿）を見せていただきました。

記念祭当日行われた、神奈川県高等学校新人テニス大会 個人戦ダブルスに於いては、本校の3つのペアが、優勝・準優勝・第3位と表彰台を独占しました。陸上部も、神奈川県高等学校駅伝大会で優勝し、全国高等学校駅伝大会・都大路への切符を手に入れました。

3年生の進路については、筑波大学、早稲田大学、慶応大学、また、海外大学等合格など、今年も日頃の学習の成果が発揮することができました。一人ひとりの努力とみんなの協力で、進路を切り拓くことができました。それぞれの進路先で力を発揮してくれることでしょう。

ここで、活動等のすべてを紹介することはできませんが、生徒の皆さんの数多くの頑張り・活躍に敬意を表します。

同窓会の皆様も、引き続き、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

コロナ禍を 乗り越えて

進路指導部部长
足立 健一郎



昨年度から新型コロナウイルスが世界を襲い、今まで普通だと思っていたことができなくなってしまふ事態に陥りました。現在もその状況は変わらず、「with コロナ」の考え方をもって様々なことが行われるようになりました。高校生活の集大成である進路活動においても新型コロナウイルスは生徒たちに大きな影響を与えています。昨年度は新型コロナウイルスの影響と併せて「大学入試改革」が行われ、受験生だけでなく学校としても不安が先行した1年でした。しかし、実際進路活動を行っていくと、オンライン面接等などはあったもののコロナの影響は予想よりも少なく、例年通り取り組めたと感じています。今年度はコロナ禍で行われることは前年度と同じでしたが、大きく違うことがありました。それは高校生活で一番活発に活動できる2年生時にコロナの影響で何もできなかった学年だったということです。「思考力・判断力・表現力」や「主体性・協働性」などを求められる入試に対し、学校行事や部活動、郊外活動に取り組みたくてもできなかった生徒たちは、何を武器に闘えばいいのか、何をアピールすればいいのか、という問題にぶつかってしまったのです。このような中で様々な検定資格を取得することや1年生で取り組んできたことなど、どんなことでもアピールするように指導してきました。担任をはじめ教科担当の先生方のおかげで生徒たちが希望の進路に進むことができたと考えています。そして何よりも生徒たち自身が高校生活を振り返り、自分のアピールできるものを自分なりに

に表現できた結果だと思っています。今後も「with コロナ」での生活が余儀なくされる中、進路活動で納得する結果を手にするには、早めの対策と得られるもの(勉強を始めとする資格や経験)に挑戦し、特色あるコースでの経験を活かしていくことだと考えます。

3年生の みなさんへ

第3学年主任
渡辺 明子



皆さん、卒業おめでとうございませす。また保護者の皆さまにおかれましては、これまで本校の教育活動に多大なるご理解とご協力を賜りましたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

入学おめでとう!と皆さんを迎えた日から、あっという間に3年間が経ってしまいました。我々学年団は、1年生の時には、「色々な自分を見つけよう」、2年生では「自分の答えを見つけよう」、3年生では「自分の力で未来を切り開こう」という学年目標を立てて皆さんの高校生活をサポートしてきました。今多くのことを学び、大きく成長した皆さんが、凛とした表情で、輝かしい未来へと飛び立とうとしている様子を見ながら、言葉にならない思いで胸がいっぱいです。そして、3年間を皆さんと共に過ごせたことを、心より感謝しています。

さて、この3年間はコロナウイルスの流行に翻弄された3年間でもありました。普通と思われていたことが次々できなくなり、日常の大切さを感じるにはその変化はあまりに急で激しいものでした。しかし、皆さんはそのような状況下でも、その都度出来事に向き合い、自ら考えることをやめずに、高校生活を進むことができました。歩みをとめなくなることも、多くのことに向き

合えない時期もあったでしょう。しかしその度、ご家族や友人や、先生方、その他多くの人に支えられて、皆さんは今日、ここまでたどり着くことができました。だから、これからも自分に自信を持って、そして、どんな時も感謝の気持ちを忘れずにいて欲しいと思います。

それでは少しだけ、今後の皆さんにアドバイスさせていただきます。

まず、どんな時でも精一杯やってみてください。自分がやりたくなかったことでも、とにかくやれるだけやってみる。そうするときっと新たな道が開けてきます。それは自分が思ってもみなかったところへ続いているかもしれません。でも、必ずその頑張りを見てくれる人はいるし、たどりついた場所はあなただけのものです。

それから、人は一人では生きられないということです。当たり前と思うかもしれないけれど、忘れがちなことでもあります。特に、自分の傍にいてくれる人に対して。だから、後悔しないためにも、大切な人にはいつも最善を尽くすようにしましょう。また、あなたの知らないところで、知らない誰かが、あなたのために最善を尽くそうとしてくれていることもあるかもしれません。世の中はそういう多くの人の仕事や思いでできています。見えないことにも感謝の気持ちを持てる人でいてください。

次に、誰かを応援することをやめないでください。自分がつらい時や苦しい時でも、頑張っている誰かのことを応援することは、自分自身を鼓舞することにつながります。誰かを元気にすることで自分も元気になりましょう。そして、自分自身のよき理解者になってあげてください。他人のことを全て理解することはできません。だからせめて自分は自分に寄り添ってあげて、大切にしてください。そ

(4) 令和4年3月10日

同窓会だより

して自分を信じられるように、常に思考をブラッシュアップしてください。あふれる情報に左右されない、強い自分を持ってください。

最後に、これからも、勉強は続きます。どんなことが起こっても、大丈夫。それも勉強です。学ぶことに卒業はありません。どうかこれからも、学ぶことをやめず、素敵な人生を送ってください。いつも応援しています。卒業おめでとう!

旅立ちに寄せて

3学年副主任
3年2組担任

橘川 友里



3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。卒業を迎え、3年間の高校生活を思い起こしている人も多いことでしょう。入学当初に思い描いていた高校生活とは少し異なるものになったかもしれません。しかし、周囲の状況の変化をしっかりと見極めて柔軟に対応したみなさんはこの3年間で大きく成長したと感じています。そして、晴れてこの卒業の日を迎えられたのも保護者の皆様のお力添えがあってこそです。保護者のみなさまに心からの感謝とお祝いを申し上げます。

この3年の間には「もし〇〇だったら…」とほとんどの人がきっと一度は考えたことのあることが実際に起きた高校生活だったと思います。「もし学校に登校しなくて良ければ」「もし登校時間が遅くなれば」などなど。オンライン授業等の対策はもちろんみなさんの健康、安全のためにとられたものですが、これらが現実となった時、みなさんの中でどんな感覚が生まれたでしょうか。「友達に会いたい」「登校した方が楽」など今までの当たり前が恋しくなるような感情を覚えたり、オンライン授業の便利さを実感した人もいるでしょう。想像していたこ

とを実際に経験することによって、今までの日常のありがたさを再認識したり、新たなチャレンジによってアイデアが生まれ、可能性の広がりを見つけた人もいます。そして何より、方法は変わっても勉強、時間や期限を守るなどすべき根本は変わらないとも感じた人も少なくないでしょう。

人間は誘惑に弱く、どこかで今の状況から逃げたい、楽をしたいと考えてしまう生き物です。しかし、それらを周りの人や環境のせいにならず行動に移し、経験してみることで自分の世界は広がり、新たな発見が生まれてくるはず。環境の変化に惑わされず、今だからこそできる方法で進路、卒業に向けて努力したみなさんはこの経験をこれからの人生に生かせることでしょう。

最後に、きっとみなさんを勇気付けてくれるであろう言葉を贈ります。この先の人生で環境のせいにならなくなったり、壁にぶつかった時にはこの言葉を思い出してみてください。'Life isn't about waiting for the storm to pass... It's about learning to dance in the rain.'これはアメリカの歌手、作家であるVivian Greeneさんの言葉で「人生とは嵐が通り過ぎるのをじっと待つためのものではなく、雨の中でダンスすることを身につけるためのものだ。」我慢が必要な時でもその中に少しでも喜びや幸せを見つけようとしながら、これからの自分の道を突き進むものにしていってください。

卒業を迎える
皆さんへ

3年1組担任

佐藤 将大



3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。高校生活を振り返ってみるとあっという間だった

のではないのでしょうか。私自身、3年1組の担任として関わったこの1年間は本当に濃いものでした。初担任として、うまく学級運営、進路指導ができるか不安でしたが、毎日が新鮮で楽しく、学ぶことの多い日々でした。ひとつ後悔があるとすれば、この学年のほとんどの生徒と授業で関わることができなかったということです。そこ、私からは皆さんに、私が好きな数学のある法則についての話をしたいと思います。難しい話をしますが少しお付き合いください。

数学には、「アルキメデスの公理」というものがあります。私はこの公理を初めて知った時、すごく衝撃を受け、それ以降この公理を胸に抱いて生きています。「アルキメデスの公理」とは、簡単にいうと「ものすごく小さい数 a とものすごく大きな数 b があり、その差がかなりあっても、 a が何倍にもなれば、いつかは b を超える。」というものです。難しい言い方をしていますが、当たり前のことです。ここで皆さんに考えて欲しいことわざがあります。「塵も積もれば山となる」です。聞いたことありますよね。これを数学っぽく言い換えると、「ものすごく小さい a (塵) でも何倍になれば、ものすごく大きな b (山) になる」ということを表しています。しかし、「アルキメデスの公理」は山を超えるといっています。「塵も積もれば山となる」のではなく「塵も積もれば山を越える」なのです。私は数学で論理的に正しいとされたものは絶対だと考えています。

今、皆さんは将来に対して漠然とした夢があると思います。本当になれるのか不安かもしれませんが。もしかしたら周りの人は「お前には無理だ。」と言うかもしれませんが。でも大丈夫です。絶対になります。なんならもっと大きなものになります。それは「アルキメデスの公理」が

保障しています。どんなに道のりが長くても、目標に向かって何が足りないのかを考え、一歩ずつ進んでいってください。周りがなんと言おうと、あなた自身が諦めない限り絶対になれます。皆さんの今後の活躍を心よりお祈り申し上げます。この度は本当にご卒業おめでとうございます。

卒業生の 皆さんへ

3年10組担任
野溝 奈央



3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、これまで温かく見守ってこられた保護者の皆様へ心よりお祝い申し上げます。

3年間の高校生活はいかがでしたか？長いようで今となってみればあっという間だったのではないのでしょうか。

私は皆さんの入学と同時にこの白鷗女子高等学校に入職しました。そのため、3年生の皆さんとは縁の深さを感じておりました。また、3年前の私は教員になった初日に1年生の担任を持つことを知り、不安でいっぱいだったのを覚えています。特に入学式は今振り返っても、人生で一番緊張した日でした。しかし、皆さんのキラキラと輝いた笑顔や体育祭・記念祭などの行事で、何事にも全力で取り組む姿勢を見ているうちに気付いたら私の不安な気持ちは消えていました。皆さんのおかげで本当に楽しい時間を過ごすことができました。もちろん楽しいことばかりではなく、これまで何度もぶつかることができましたね。しかし、3年の時が経ち、立派に成長した皆さんを近くで見ることができ、今は感謝の気持ちで胸がいっぱいです。

さて、このたび本校を巣立っていく皆さんへ私の大切にしている

言葉を贈りたいと思います。それは「運は“はこび”」という言葉です。この言葉は、私が高校時代に読んだ、若月佑孔さんの『百舌』という本の中で登場する言葉で、最も印象深く、また好きな言葉でもあります。よく人は、自分は「運がよかった」、「運が悪かった」などと言うことがあります。“はこび”というのは日頃の習慣や行い、努力などをいい、その“はこび”の良し悪しによって“運”は自然と決まっていきます。運が良かったのは“はこび”が良かったのであって、悪かったのは“はこび”が悪かっただけなのです。つまり、“運”は自らの力で“運ぶ”ものといえます。努力をすればそれなりの成果は出る、しなければ当然良い結果は出ません。「運は“はこび”」この言葉を大切に、これからの長い人生を有意義に過ごしてください。

最後に、ここ白鷗女子高校は、皆さんが人生の方向性を決意したスタート地点です。いつでも帰ってきてください。どんな時も笑顔は忘れずに！皆さんのこれからの活躍を心から応援しています。

卒業を迎える 皆さんへ

3年11組担任
原口 りえ



3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様へ心からお祝い申し上げます。

さて、白鷗女子高等学校での3年間はいかがでしたか？もちろん、一人ひとり抱える「想い」は違うと思いますが、誰しもが楽しいことだけでなく、物事が上手くいかず、悩んだこともあったでしょう。特に、3年生は進路に向けた不安やプレッシャーを抱えていた1年間だったかと思います。それらを乗り越え、無事に卒業という日を迎

えることができた自分自身をまず褒めてあげてください。そして、どんな時も見守ってくれた家族や友人、先生方への感謝の気持ちを決して忘れてはいけません。

これから次のステップへ進もうとしている皆さんに私から伝えたい言葉が1つあります。それは、「生きていくなかで無駄なことは決して起こらない」ということです。これは私が幼い頃からよく母に言われてきた言葉で、私自身、今まで何度も救われてきた魔法の言葉でもあります。ここからは、これまで生きてきた18年間を少し振り返って読んでもらいたいな、と思います。誰しもが、一度は、後悔や悔しい思いをしたことがあるでしょう。なかには、なぜ私ばかりと自分自身を攻めてしまう経験をした人もいるのではないのでしょうか。しかし、そのような出来事があったからこそ今の皆さんがあります。その時は、自分とはまったく関係のないようなことに思えたとしても、その経験が必要だったと思える時が後にきつと訪れます。ですから、どんな時も自分のことを大切に、あまり怖がり過ぎず、新しいことにどんどんチャレンジして下さい。そして、知識だけではなく、生きる上で大切な知恵を学び、これからの人生をより良いものにして下さい。今はまだ、なかなか腑に落ちない内容かもしれませんが、辛くなった時に思い出せるよう、頭の片隅でもいいので覚えておいて欲しいな、と思います。

これから先、様々な出来事、出会いが皆さんを待っています。

たくさん経験して素敵な心をもった女性になって下さいね。

皆さんのさらなる成長を楽しみにしています。



(6) 令和4年3月10日

同窓会だより

卒業生の
皆さんへ3学年副担任
佐藤 初海

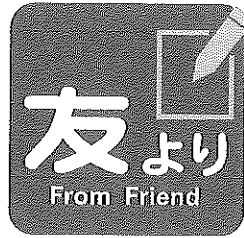
みなさん、ご卒業おめでとうございます。また保護者の皆様、ご息女のご卒業誠にありがとうございます。

皆さんとはクラスや学校行事などで関わることが多かったですね。皆さんと初めて顔を合わせた時の印象は「とても素直」でした。クラス毎に個性や強みがあり、何事にも一生懸命に取り組んでいたことは素直さあつてのことだったと思います。最初はお互いに少し緊張しながら自己紹介をし、試験前や進路活動では一緒に頭を悩ませ、廊下や教室で会うと元気いっぱいに声をかけられ、体育祭や記念祭が出来たことなど振り返ってみると沢山の思い出があります。あつという間の1年間でしたが、3学年に携われたことを本当に感謝しています。

4月からはそれぞれが新しい進路に向かって歩み始めます。これからの悩み壁にぶつかる時もあると思います。そんな時はすぐに背を向け諦めてしまうのではなく、どうしたら乗り越えられるかを、もがいて考えてみましょう。自分で限界を作らずに自信を持って色々なことに挑戦して下さい。いざ振り返ってみると壁だと思っていたことが実際にはそうでもなくなったりもします。そして時には白鷺での高校生活を思い出してみてください。きっと友達や先生方との思い出や言葉が力をくれます。

皆さんと最後の1年間を一緒に過ごせたことは私にとっても大きな1年になりました。

また会える日を楽しみにしています。ありがとうございました。

3年間
生徒会役員を務めて前生徒会長
今年度卒業3年1組 徳永 彩七

私は、全校生徒の皆さんのお陰で3年間生徒会役員、そして、生徒会長を務めることができました。最初は分からないことだらけで手探りの状態でしたが、暖かい先輩方のお陰で徐々に活動にも慣れ、自分の意見を伝えられるようになりました。また、沢山の人と交流を深めることで、自分の視野を広げることができました。

1年生の時はまず活動内容を把握することから始めましたが、2年生に進級してすぐ感染症拡大という大きな壁に悩まされました。オンライン期間が長く続いて、やっと登校できたかと思ったら、分散登校や時差登校と、普段でいることができなくなっていきました。この中で何かできることはないかと考え、全校生徒が少しでも明るく登校できるように、挨拶運動を行いました。他にも、この年は、体育祭が開催出来なかったため、記念祭こそは開催したいとい

う役員の強い思いから、夏休みの頃からオンライン会議を活用し、実現に向けて話し合いを進め、開催することができました。

3年生では、会長として全校生徒の前に立つ機会が増えたり、生徒会の話し合いの舵取りをする中で学んだりすることが沢山ありました。体育祭では、準備から進行、例年とは異なったスローガンの作成に力を注ぎ、デザインにもこだわり、達成感のある作品を仲間とともに作り上げることができました。記念祭は一ヶ月延期となりましたが、夏休み期間から徐々に準備を進め、無事に開催することができました。当日はグラウンドで生徒会企画も行いました。何度も議論を重ねた結果、用意した景品全てをお客様にお届けするほどの大盛況を取めることができました。記念祭のスローガン「Real time」には今、この時を仲間と共に分かち合い、団結して楽しもうという思いを込めました。この言葉の通り、全校生徒が一丸となって行った記念祭は、一人ひとりが楽しめたものになったのではないかと思います。

生徒の代表として活動した生徒会役員としての3年間を通して、責任や団結力を学ぶことができました。要望に答えたり、全体をまとめたりと、より過ごしやすい学校づくりのために動くことは難しい反面、とてもやりがいのある活動でした。また、人前に立って話すことは言葉の責任も伴うため、より

入試広報室より お知らせ

お知り合いのご息女で令和4年度中学3年生が
いらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

(お問い合わせ) 入試広報直通 045-574-0971

良い表現ができるように心がけるなど、考える力も養うことができました。他にも、様々な人との出会いから、沢山の刺激を受けました。ここで学んだこと、自分なりに学校のために行動できたスキルは、今後の生活においてチームをまとめ、思いを形にしていくために必要な力であると自覚しているので、是非生かしていきたいと思えます。白鵬女子高校という同じ学び舎で、3年間ともに過ごしてきた人々との出会い、日々の時間、そしてそれぞれの場面で得た学びは、とても貴重なものとなりました。そして今後、挑戦していこうという勇気と希望を与えて下さった全ての皆様に感謝致します。



新しい自分に 出会った3年間

今年度卒業 3年2組 林嘉怡

私は高校3年間でさまざまなことに挑戦し、成長することができました。白鵬女子での高校生活を終えて、自分自身の将来の方向性をしっかりと定め、その実現に向けて努力することで新たな自分が誕生したと思っています。

中学生までは英語が苦手だった私ですが、現在、英検2級の資格を取得できました。白鵬女子高等学校に入学を希望した時、外国人が多いコースを選択しないで、取って日本の進学コースの環境を求め、セレクトコースの受験に挑戦しました。

高校入学後、私は目立たない英語の成績をアップさせたいと目標を定め、努力を続けてきました。

第1ステップの目標は、失敗した英検3級に合格することでした。日々懸命に勉強を続けた結果、晴れて合格しました。この成功体験から、英語力についての実力アップを図ることができました。そして最終的に、英検2級の資格を手にすることができました。

この経験は、私にとって英語の世界の扉を大きく開いてくれた絶好のチャンスとなりました。

私と日本語との出会いは、中学2年にさかのぼります。当時は、不安な気持ちを抱いて学校生活を過ごしていました。日本語をうまく話すことができず、日本人の友だちもなかなか作れませんでした。高校生になると、自分から進んでコミュニケーションを取るようになっています。継続的な学習活動を心がけ、学校の授業に加え、放課後実施された日本語支援の授業などにも取り組みました。さらに、校外学習では、異文化理解を深めるために、「多文化共生ボランティア活動」に参加しました。地域の防災訓練や地域ラジオ放送の防災情報中国語版ナレーションなどの活動をサポートしました。高校生になると、私自身もお世話になった「外国人中学生学習支援教室」で3年間、後輩への学習サポートボランティア活動を続けてきました。自分の身につけた知識を後輩と共有し、ともに学習することの喜びと達成感を得ることができました。さらに、母国語である中国語と日本語のスキルを生かして、言語文化間で成長してきた自分の可能性に気づきました。

このような経験から、日本語が不慣れで自分の気持ちを言葉にで

きないことを通して、言語通訳者という職業に憧れを持ちました。複数の言語を駆使して人の感情や心情を的確に表現することで人と人との繋がりを大切にできるような通訳者になりたいと思っています。その第1段階として、大学では国際関係学や言語学に力を入れて学びたいと思っています。将来は母国語である中国語、力を入れてきた日本語と英語にさらに磨きをかけ、より多くの人の思いが相手に通じるような自身の複言語力を生かしていきたいと思えます。日本に来日したことや高校3年間で経験したことで、私の将来の道が開かれました。

3年間という時間が過ぎるのはとても早いと思えます。高校の3年間でさまざまなことを経験し、友人関係を広げることもできました。白鵬で学んだ勉強の時間やアクティブの時間、さらに校外での活動など、本当に楽しく充実した日々でした。

今までお世話になった全ての方々には心から感謝しています。先生方は時には厳しく、時には優しくご指導頂きまして、ありがとうございました。

改めて、3年間本当にありがとうございました。



将来の選択のきっかけ

今年度卒業 3年3組 三和田 彩未

私はカナダのプリティッシュコロンビア州にあるケロウナという場所で高校2年次の11月から高校3年次の7月まで留学生生活を送っていました。3年間という短い高

(8) 令和4年3月10日

同窓会だより

校生活のなかで、私が海外留学をする決意をした理由は、語学力を高めたかったこと、外国の文化に興味を持っていて実際に現地での生活を経験してみたかったことなどがあったからです。

実際に現地で生活してみると、カナダは移民の国とも呼ばれているように、多国籍の人がとても多かったという印象です。日本で生活していた時には目にする事ができない光景が多くありました。私は3家庭でのホームステイを経験しました。韓国、カナダ、フィリピンなどの家庭もそれぞれ異なる国にルーツを持つ家庭だったことから、カナダだけでの生活習慣だけでなく、複数の国の生活習慣を経験することが出来ました。コロナ禍での留学だったため、日本とカナダのコロナウイルス対策の違いなど、驚くことがたくさんありました。その中で一番印象に残っている事は、ワクチン接種です。私は6月にカナダで1回目のワクチン接種をしましたが、カナダでは1回目と2回目の接種間隔を延ばすことでより多くの人が早い段階で接種するという政策に驚きました。世界的に制限が多く課されている中で、今回の留学経験は大変貴重なものでした。

さらに、私にとって大きな出会いがありました。フランス語を話すカナダ人との出会いです。ケベック州出身のフランス語を第一言語として使用する友人と出会い、「カナディアンフレンチ」というものがあることを知りました。フランスで使用されているものと異なっていること、同じ国でも英語よりもフランス語を話す人が多い地域

があるということなどを学びました。この出会いをきっかけに、私はヨーロッパだけでなく、多くの国で使用されているフランス語やフランス語圏についてより学びたいという気持ちが強くなりました。卒業後は、学習院大学で、フランス語圏の文化や言語について学ぶフランス語圏文化学科に進学し、自分の興味、関心をさらに広げていきたいと考えています。これらの経験は、自分の考え方、行動が大きく変わるだけでなく、今後の将来について見つめ直すきっかけになったと思います。



カナダ留学を経験して

今年度卒業3年3組 小菅 琳香

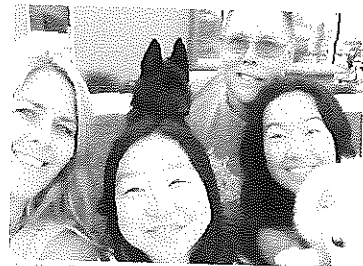
高校在学中にカナダへ二回長期留学したことは私の人生を変える大きな体験でした。

最初に行ったのは、1年生の夏から約半年でした。初めて1人で海外へ行き、1週間以上家から離れて過ごすのはこの時が初めてでした。最初はとても不安と緊張でいっぱいになり、マイナスの気持ちにしかたならず、とても大変でした。ですが、たった半年間なのだから、留学の半分の時間をマイナスな気持ちで過ごしてはいけないと考え、何もかもが吹っ切れたかのように、あらゆることに挑戦するようになりました。まずは、自分から進んでコミュニケーションを図ったり、積極的に行動したりすることなど、自分が出れる範囲のことに挑戦していきました。その挑戦が生活の質を向上させ、

自分からホストファミリーや教科の先生、周りにいるクラスメイトと英語で話せるようになっていきました。同時に、自分の英語力やコミュニケーション力などがグンと上がりました。

2度目の留学は、2年生の秋から3年生の夏までの約1年間でした。本来であれば、2年生の夏から実施の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響でビザが発行されず、少し遅れての出国となりました。現地についても、2週間ホストの家の自室で自主隔離があり、1回目とは全く違った留学生活がスタートしました。そして隔離期間が終わり、ようやく学校にも通えるようになりました。そこでは、新たに様々な経験をしました。第3外国語を習得するためにスペイン語の授業を選択し、さらに現地の学校ならではの「FOOD」の授業を受講するなど、1回目の留学とは違った経験が出来ました。「FOOD」の授業では、「フードセーフ」という資格を取得しました。もし、五年以内にカナダの飲食店で働く場合は、大変役に立つ資格で、自分の英語力をより伸ばすことができるベース作りのための良いチャンスとなりました。

改めて私の高校生活を振り返ると、他の高校では容易に叶えられない多くの経験をすることができたと実感しています。帰国後は、



これらの経験を多に活かし、大学入試に力を入れました。自分の足りないと感じていた英語の単語力を中心に長文の文章の読解能力など様々な所を見直し、本番に望むことが出来ました。そしてその甲斐もあって、無事に第一志望の大学に合格することが出来ました。合格が出来たのも、高校生活の中で2度の長期留学をすることができたこと、そしてその中で色々な経験や挑戦、努力を惜しまずに、最後まで諦めなかったからだと思っています。



一走懸命

陸上部部長 2年1組 岡 夢乃

私達陸上部は、「一走懸命」という言葉をモットーに毎日練習しています。私は、この言葉には色々な意味が込められていると思います。「一つひとつの走りを懸命に走る」という意味もあり、「一人ひとりの走りがチームを形作る」といった意味もあると思います。この言葉は、私を励まし、時に私を叱ってくれる、とても大切な言葉です。

私は1年生の冬から部長を務めさせて頂いています。私が部長になったのは、神奈川県高校駅伝で敗れ、チームを立て直していきこうという時期でした。部長は、競技面で仲間



を引っ張るだけでなく、競技以外にも模範となる行動をとらなければなりません。その役目を、佐野先生は県駅伝で良い走りが出来なかった私に任せて下さいました。

全国高校駅伝に出場するために、どういうチームを作るべきか、副部長の高橋ひよりと沢山話しました。思う様に行かず、「どうして上手い出来ないのだろう」と悩むこともありましたが、悔しい思いをした私達にしかできないチーム作りができるはずだと信じていました。そして、今年度は県駅伝で13度目の優勝、全国高校駅伝に出場することが出来ました。

全国に行ったことで、私は、白鵬女子陸上部が沢山の人に支えられているということに改めて気付かされました。選手をサポートしてくれたOGの先輩や宿舎の方、沿道で応援していた家族、先生方も激励に来て下さいました。そして、アディダス社がスポンサーについて頂き、同窓会をはじめ、陸上部に関わる沢山の方から活動支援金を頂きました。

今回私達は、実際に京都の地を走れた喜びと同時に、全国の厳しさを知りました。そして、自分達が考えていたチームよりも、もっと大きな、沢山の笑顔に溢れた「チーム」が存在するということを知りました。大会が終わった今、「一走懸命」とはどんな意味かと聞かれれば、私は「走れることは沢山の支えがあって成せること」と答えます。

今度は入賞を目標に、あの京都の地へ戻ります。そして、私達の走り、いつも支えて下さる方々への感謝を、「一走懸命」表現したいと思います。



千射万箭、正射必中

～感謝とその先の

高みを目指して～

弓道部部长 2年1組 渡邊 歩美

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私達弓道部は、現在2年生14人、1年生13人の計27人で活動しています。創部2年目の部活動で、今年度全国高等学校体育連盟に加盟したばかりの新しい部活動で、部員全員がゼロからスタートした初心者たちです。私が1年生だった当時は、何もかもが初めてで、部員も顧問の先生も手探りの状態でスタートしました。しかし、一人一人の「上手になりたい」という強い思いが部員全員の団結力に繋がって、一丸となって部を創り上げることができました。2年生の4月には、多くの新入生が加わり、本格的に白鵬女子高等学校弓道部が始動しました。

弓道部設立まで、多くの方々を支えていただきました。弓道部を創ってくださった学校の関係者の皆様、長谷川欣一範士、日頃から稽古を見ていただいている佐藤昌子師範、渡辺基郎顧問、私たちの活動を温かく見守ってくださる保護者の方々、そしてともに高め合い続ける仲間たち、全ての方々に感謝申し上げます。

私たちは、「千射万箭。一、思いやりの気持ちを忘れずに。一、礼儀と挨拶を重んじる。一、仲間とともに何事にも挑戦を。」という目標を掲げ、一日一日の稽古を大切に練習しています。「千射万箭」とは、弓道の心得でもある四字熟語であり、

(16) 令和4年3月10日

同窓会だより

事務局より

編集後記 新型コロナウイルスの影響による生活スタイルの変化から2年が経過しました。本校も、感染症対策に策を講じながら、教育活動を止めることなく、日々の学習活動、オンライン授業をはじめ、無観客での体育祭、入場制限下での記念祭など、昨年度の経験を活かしながら、生徒たちの活躍できる場を作ることに一生懸命な2021年度であったと思います。

社会の情勢は、新型コロナウイルス第5派のなかでの東京オリンピックが1年越しで開催され、高校の部活動においてもインターハイ、全国大会、県大会などが行われ、高校生の力強い活躍ぶりを目にする機会が多くなりました。

日常生活を振り返る時、限られた時間、限られた環境の中で、お互いに工夫し、励まし合い、助け合いながら学校行事や部活動に取り組む姿は、何ものにも代え難い貴重な経験であり、今後の一人ひとりの人生に活力を与えてくれるのではないのでしょうか。生徒たちの夢や希望に向かって輝かしい実績を作ってくれていることに対して、私たち教師の役割は、一人でも多くの生徒たちが新たなステージに進めるための道筋を構築できるように尽力することだと思っています。

さて、「新しい生活スタイル」が平常化する中で、本誌の編集にあたり、緑蔭会の方たちには、今年度も原稿編集に奔走していただきました。また、寄稿をしていただきました多くの皆様に心より感謝し、御礼を申し上げます。卒業生の方たちの社会貢献の様子や、京浜女子商業高等学校時代のエピソードなど、当時の学校の風景を身近に知ることができました。卒業生の皆様も、その時代のことを思い出されたのではないのでしょうか。在校生は、今年も海外大学をはじめ、国公立や難関私学の大学に合格しました。また、陸上競技部やテニス部、水球部などは、全国大会に連続出場するなど、目覚ましい成果をあげています。

まだまだ厳しい社会情勢が続きますが、卒業生の皆様、教職員、在校生が心ひとつとなり、母校の更なる発展に貢献していただくと同時に、ますますのご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

(緑蔭会事務局)

訃報

森 範昭先生 (旧職員) 2021年9月 逝去

齊藤 勇一先生 (旧職員) 2022年2月 逝去

～ 謹んでご冥福をお祈り申し上げます ～

今年度も1名の新役員が加わり、計20名となりました。次年度も母校の発展のための支援と活発な同窓会の活動をして参りたいと思います。

徳永 彩七 (令和三年度卒)

お願い

◇来年度の本誌への寄稿をお願いします。年内に本校緑蔭会事務局に近況報告等の原稿をお送りください。

◇住所変更(住居表示の変更)などがありましたら、お知らせください。住所・氏名(旧姓も)・卒業年度・クラスを忘れずにご記入下さい。

◎ご意見・ご希望などありましたら、お寄せください。